

 **Denyo Co., Ltd.**

携帯発電機



取扱説明書
GE-1600SS-IV

ご使用前に、かならず取扱説明書・本体ラベルをお読みになり、内容を理解してからお使いください。

7DK-28199-D0

おねがい

デンヨーエンジン発電機をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
本書には、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・調整について説明してあります。

万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。

あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを充分ご存じの方も、この商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なおご使用时には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

*本書では正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。



安全に係る注意情報を意味しています。



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。



取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。



正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

- * 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- * 保証書はよくお読みいただきお買いあげ日、販売店の記入をご確認ください。
- * 本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお本機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。

目次

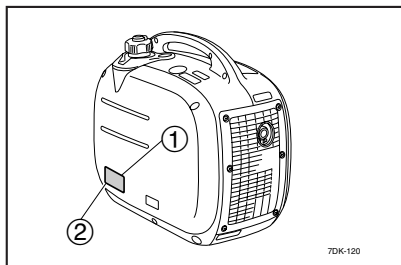
おねがい.....表紙裏 (表2)	● 交流電源の取り出し方.....P23
製造番号.....P1	● 直流電源の取り出し方 (12Vバッテリー充電専用).....P24
お客様相談窓口のご案内.....P2	● 交流電源の使用可能範囲.....P27
安全にお使いいただくために.....P3	● 直流電源 (12Vバッテリー充電 専用) の使用可能範囲.....P28
● ▲ 警告.....P3	● エンジンの停止.....P29
● ▲ 注意.....P4	点検.....P30
重要ラベル.....P5	● 始業点検.....P30
● ▲ 警告ラベル.....P5	● 定期点検.....P30
● ▲ 注意ラベル.....P6	始業点検.....P31
● その他ラベル.....P6	● 燃料 (自動車用レギュラー ガソリン) の点検.....P31
各部の名称.....P7	● エンジンオイルの点検.....P32
各部の取り扱い.....P9	● その他の点検.....P32
● オイル警告装置.....P9	定期点検表.....P33
● エンジンスイッチ.....P10	定期運転・定期交換.....P34
● 交流コンセント.....P10	● 定期運転.....P34
● 直流コンセント.....P10	● 定期交換.....P34
● オイル警告ランプ (赤色).....P11	定期点検・整備ご相談窓口のご案内...P35
● 出力表示ランプ (緑色).....P11	点検・調整.....P36
● 過負荷警告ランプ (赤色).....P11	● エンジンオイルの交換.....P36
● 燃料給油キャップつまみ.....P12	● スパークプラグの点検と清掃.....P38
● 燃料コック.....P12	● 燃料タンクストレーナの清掃.....P40
● チョークノブ.....P13	● マフラーワイヤネットの清掃.....P41
● 周波数切替スイッチ.....P13	● エアクリーナエレメントの 清掃.....P43
● エコノミーコントロール スイッチ.....P14	故障診断.....P45
● アース端子.....P14	● エンジンが始動しない.....P45
● リコイルスタータハンドル.....P14	● 電気が出ない.....P45
● 直流プロテクタ (過電流保護装置).....P15	運搬.....P46
● 並列端子 (交流用).....P16	保管・格納.....P48
● 携帯工具.....P16	● 保管.....P48
はじめてお使いになる前に.....P17	● 格納.....P51
● 燃料 (自動車用レギュラー ガソリン) の給油.....P17	仕様諸元.....P53
● エンジンオイルの給油.....P18	結線図.....P55
正しい運転操作.....P20	索引.....P59
● エンジンの始動.....P20	

製造番号

● 製造番号

商品名①、製造番号②等は問い合わせや部品を注文するときのために記入してください。

万一の盗難時のために商品名、製造番号は他の資料にも記録しておいてください。



商品名

製造番号

購入年月日

	年	月	日
--	---	---	---

購入先

電話

ご購入いただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は下記の「お客様相談窓口」へお願いいたします。

**デンヨー株式会社
お客様相談窓口**

〒103-8566 東京都中央区日本橋堀留町2-8-5

 **0120-935-711**

※携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

受付時間（土日祝除く）
9:00～17:30

お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご相談ください。

- ①商品名
- ②製造番号
- ③ご購入年月日
- ④ご購入先

デンヨー商品をよりご理解いただくためにホームページもご参照ください。

デンヨーインターネットホームページ

<http://www.denyo.co.jp>

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

警告 (行為を禁止する警告文)

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので室内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所などの排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- 商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- 商品の上に物を乗せて使用しないでください。
- ヤケドのおそれあり、使用中や使用直後はマフラー一部が熱いのでマフラーやマフラー周辺のプロテクタには手足を直接触れないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で商品进行操作しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行なわないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

警告 (行為を指示する警告文)

- 商品を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに貸してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、排気口を建物や設備から1メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止してから行なってください。
燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いには充分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。
- 火災のおそれあり、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹼と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

⚠ 注意 (行為を禁止する注意文)

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、商品の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグにさわらないでください。
- 感電のおそれあり、雨や雪の中で使用しないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、発電機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、マフラー一部が充分に冷えてから行なってください。

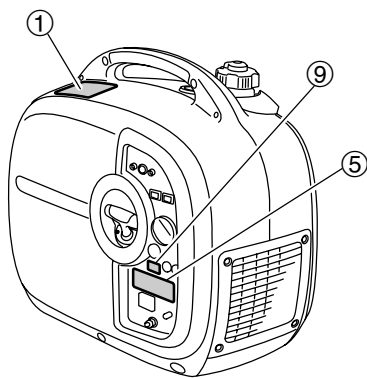
⚠ 注意 (行為を指示する注意文)

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行なう始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異状を感じたら、ただちにエンジンを停止してお買いあげの販売店またはサービス店の点検を受けてください。
- 本品から廃液を抜く場合は、容器に排出し、産業廃棄物として水質汚濁防止法に基づく廃棄処理をしてください。
- 廃液は不用意に捨てないでください。環境を破壊します。地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への廃棄はしないでください。
- 本品を廃棄する場合は、専門の産業廃棄物処理業者に委託して所定の規則や規定にしたがって廃棄処理してください。

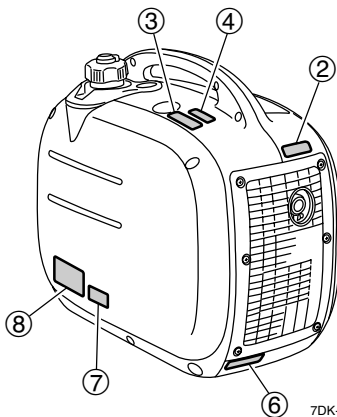
商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し正しくご使用ください。

要 点

ラベルは常に手入れを行ない、破れたりはがれたりした場合はお買いあげの販売店またはサービス店に相談して、ただちに新しいものと交換してください。








7DK-121



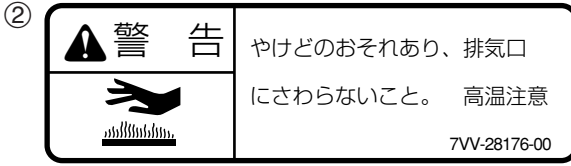
7DK-122

▲ 警告 ラベル

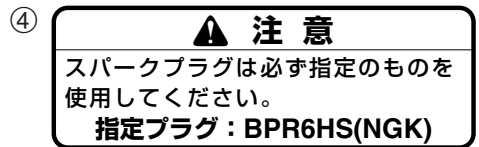
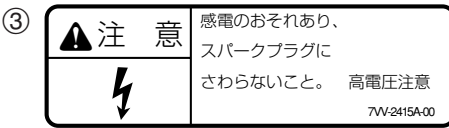
①

▲ 警告			
 火気 厳禁	火災や爆発のおそれあり ・給油中はエンジン停止のこと。 ・ガソリン給油口に火気を近づけないこと。 ・こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。 ・燃料は赤レベル(規定量)以上入れないこと。 ・可燃物のそばで使用しないこと。		・建物・設備に排気を向けないこと。 ・商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせたり、物を載せて使用しないこと。 ・運搬・保管時は燃料コックと燃料給油キャップつまみを“OFF”にすること。
	排気ガス中毒のおそれあり ・屋内など換気の悪い場所で使用しないこと。 ・人・建物・設備に排気を向けないこと。		感電のおそれあり ・雨や雪の中で使用しないこと。 ・コンセントに濡れた手でさわらないこと。
	感電や火災のおそれあり ・電力会社からの電気配線に接続しないこと。		ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。

7DK-24162-00



▲注意 ラベル



その他ラベル

⑤周波数切替スイッチ

この発電機は 50Hz / 60Hz 切替式です。
 工場出荷時は 50Hz にセットされています。
 60Hz の地域の方は、取扱説明書を参照
 いただき、60Hz にセットしてください。

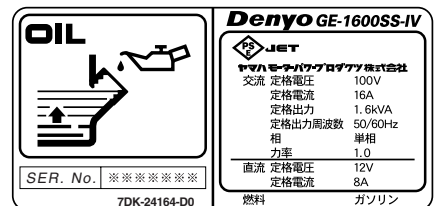
⑥製造番号ラベル (P 1 参照)

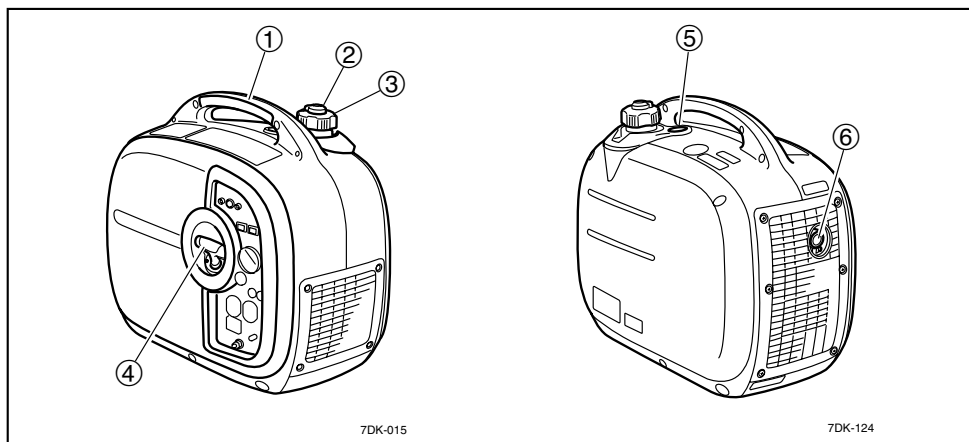
⑦「LEMA」ラベル

(「排出ガス」自主規制適合マーク)

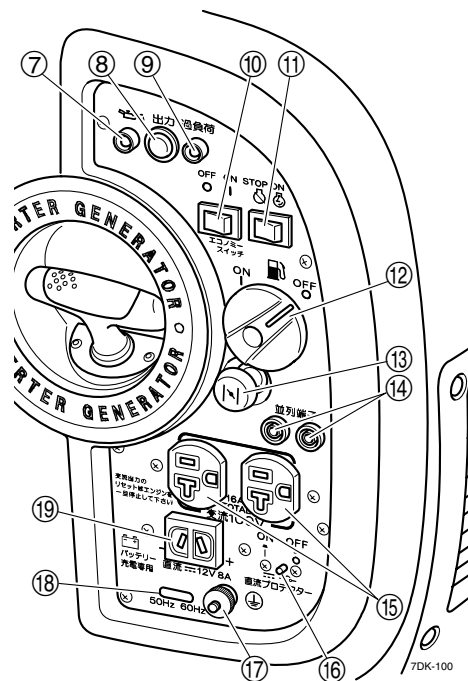


⑧オイル

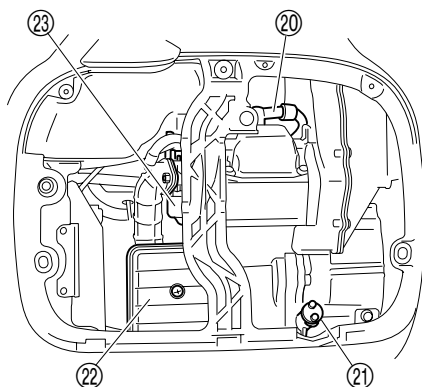
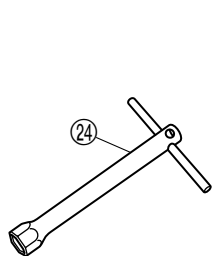




- ①ハンドル
- ②燃料給油キャップつまみ
- ③燃料タンクキャップ
- ④リコイルスタータハンドル
- ⑤燃料残量計
- ⑥マフラー
- ⑦オイル警告ランプ（赤色）
- ⑧出力表示ランプ（緑色）
- ⑨過負荷警告ランプ（赤色）
- ⑩エコノミーコントロールスイッチ
- ⑪エンジンスイッチ
- ⑫燃料コック
- ⑬チョークノブ
- ⑭並列端子（交流用）
- ⑮交流コンセント（100V/16A）
- ⑯直流プロテクタ（過電流保護装置）
- ⑰アース端子
- ⑱周波数切替スイッチ（50Hz/60Hz）
- ⑲直流コンセント（12V/8A）
- ⑳スパークプラグ/スパークプラグキャップ
- ㉑オイルプラグキャップ（オイル注入口）
- ㉒エアクリーナ
- ㉓キャブレタ
- ㉔スパークプラグレンチ



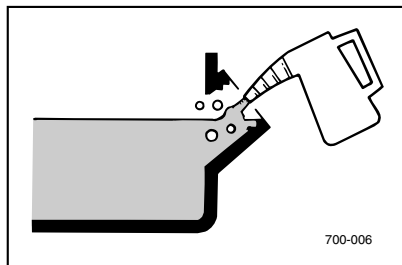
リアカバー側内部図



● オイル警告装置

エンジンオイル量が少なくなって潤滑不足になる前に、自動的にエンジンを停止させます。

エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止したときは、リコイルスタータハンドルを引いてもエンジンは始動しません。エンジンオイル量を確認しエンジンオイルを注入口の口元まで給油します。



▲ 注意

エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。

エンジン不調になるおそれがあります。

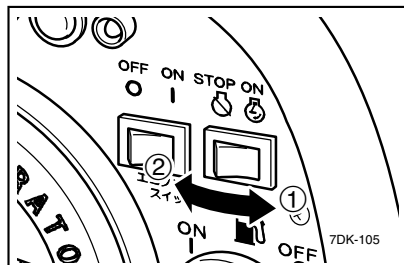
要 点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

● エンジンスイッチ

点火系統を制御しエンジンの始動、停止を行います。

- ①ON —— エンジンの運転時の位置です。
(運転)
- ②STOP — エンジンの停止および保管時の位置
(停止) 　　です。



▲ 注意

使用しないときは、エンジンスイッチをSTOP (停止) の位置にしてください。

● 交流コンセント

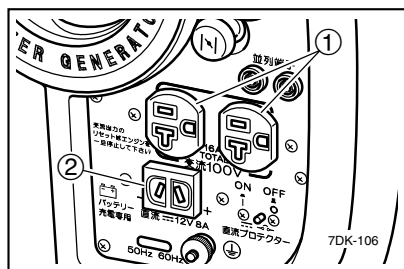
交流 (AC) の単相100V/16Aを取り出すことができます。

取り出し方は、「正しい運転操作」の「●交流電源の取り出し方」(P23) を参照してください。

● 直流コンセント

直流 (DC) の12V/8Aを取り出すことができます。

取り出し方は「正しい運転操作」の「●直流電源の取り出し方」(P24) を参照してください。

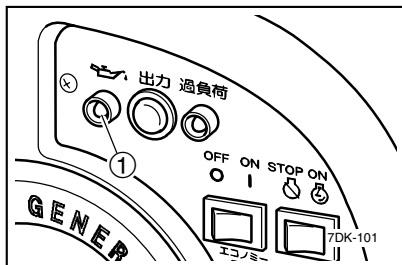


①交流コンセント

②直流コンセント

● オイル警告ランプ (赤色)

オイル警告ランプ (赤色) ①は運転中にエンジンオイル量が規定以下になると点灯し、自動的にエンジンを停止させます。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっているとリコイルスタータハンドルを引いてもオイル警告ランプ (赤色) が点灯し、エンジンは始動しません。

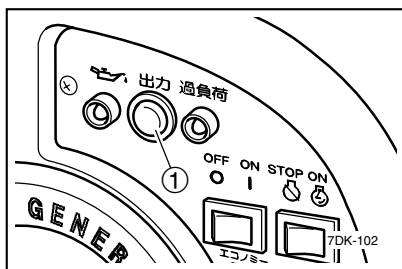


要 点

エンジンが停止したり始動しない場合は、エンジンスイッチをON (運転) にしてからリコイルスタータを引いてください。オイル警告ランプ (赤色) が点灯する場合は、エンジンオイルが不足していますので、オイル補充後、再度エンジンを始動してください。

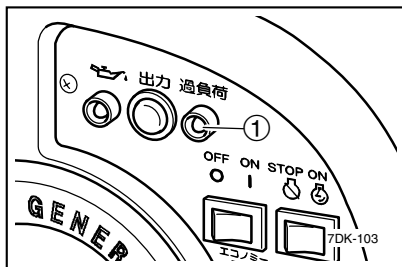
● 出力表示ランプ (緑色)

出力表示ランプ (緑色) ①はエンジンを始動し電気が発電されると点灯します。



● 過負荷警告ランプ (赤色)

過負荷警告ランプ (赤色) ①は、接続された電気機器から定格出力を超える電気を要求されたとき、コントロールユニットがオーバーヒートしたとき、交流コンセントから定格電圧を超える電圧が出力されたときに点灯します。発電機は電気の供給を遮断しますがエンジンは停止しません。



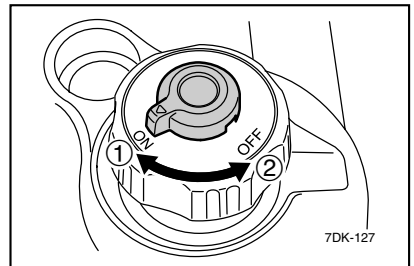
要 点

- 発電を再開する場合は一度エンジンを停止し、再度エンジンを始動してください。なお、過負荷警告ランプ（赤色）は自動的に消灯します。
- コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気機器を使用したとき、過負荷警告ランプ（赤色）が数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。

● 燃料給油キャップつまみ

燃料給油キャップつまみは、燃料タンク内部と外気との通気穴の開閉を行ないます。発電機を運転するときに使用します。

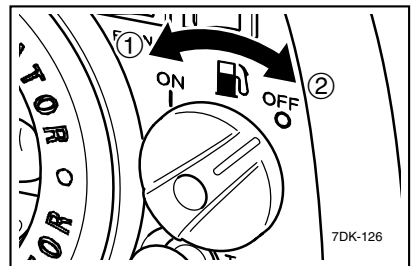
- ① ON（開） — 発電機を運転するときの位置です。
- ② OFF（閉） — 発電機を停止したとき、または保管および運搬するときの位置です。



● 燃料コック

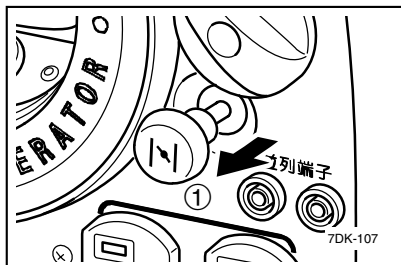
燃料コックは燃料の流れを制御します。

- ① ON（開） — 燃料が流れます。
始動および運転時のコックの位置です。
- ② OFF（閉） — 燃料は流れません。
停止および保管、運搬時のコックの位置です。

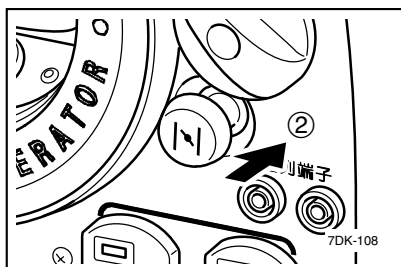


● チョークノブ

- ①始動 —— エンジンが冷えている状態で始動させるときのチョークノブの位置です。



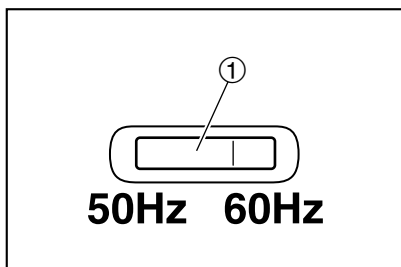
- ②運転 —— エンジンを運転するときのチョークノブの位置です。



● 周波数切替スイッチ

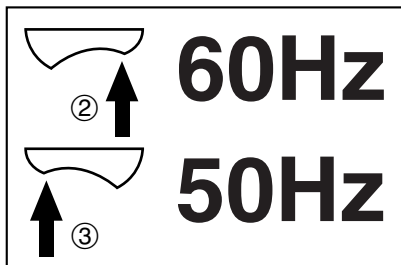
周波数切替スイッチ①は利用する器具の周波数に合わせて周波数を50Hzか60Hzのいずれかに切替るスイッチです。

60Hz仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの60Hz側②を押してください。また、50Hz仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの50Hz側③を押してください。



要 点

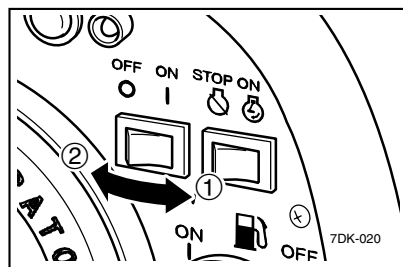
- ご購入時には、周波数切替スイッチは50Hzにセットされています。
- 周波数の切替は、エンジンの停止中に行なってください。
- 電気器具の周波数が不明の場合は、電気器具会社にご相談ください。



● エコノミーコントロールスイッチ

①ON —エコノミーコントロール装置が作動（作動中）します。電気機器を使用すると、自動的にエンジンは負荷の大きさに応じた回転となり、使用しないときは自動的に低速回転になります。

②OFF —エコノミーコントロール装置が解除さ（解除）れます。電気機器の使用の有無にかかわらずエンジン回転は定格回転で運転します。

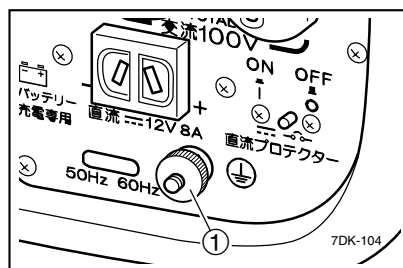


要 点

コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気機器を使用する場合は、エコノミーコントロールスイッチをOFF（解除）にしてください。

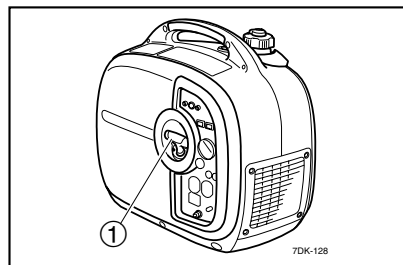
● アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。アース端子①から大地にアースしてください。使用器具をアースしたときは、発電機も必ずアースしてください。



● リコイルスタータハンドル

リコイルスタータハンドル①は、エンジンを始動させるときに使用します。

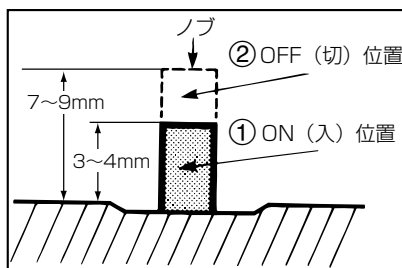
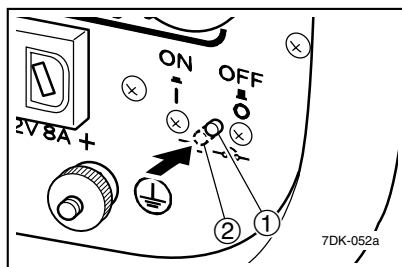


● 直流プロテクタ（過電流保護装置）

- ①ON — 直流が取り出せます。（通常はこの（入）位置になっています。）
- ②OFF — 直流が取り出せません。（切）

▲ 注意

- 直流プロテクタがON（入）のときはノブを押さないでください。
- 直流プロテクタがOFF（切）になる場合は、バッテリー容量・放電状態を発電機の指定バッテリー容量以内に減らしてください。それでもOFF（切）になる場合はお買いあげの販売店またはサービス店に相談してください。



要 点

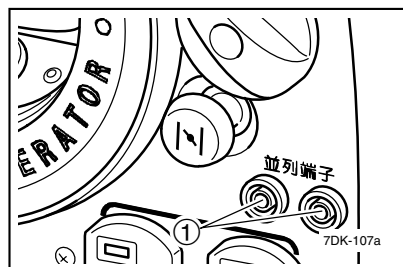
12Vバッテリー充電中に定格以上の電流が流れると自動的にOFF（切）になります。再度使用する場合はノブを押し込んでON（入）にしてください。

● 並列端子（交流用）

並列端子（交流用）①は、同一の2台の発電機（GE-1600SS-IV）を専用のコードを使用して並列に接続するための端子です。

他の発電機（GE-1600SS-IV以外）と接続することはできません。

同一の発電機を2台並列で運転した場合、電力3,000W、電流30Aが取り出せます。



要 点

- ご使用には、別売りの「並列コードセット」が必要です。またご使用にあたっては「並列コードセット」に同梱の「並列コードセット取扱説明書」をよくお読みください。
- モーターなどの大きな起動電力を必要とする電気器具を使用すると、一時的（約5秒間）に過負荷警告ランプ（赤色）と出力表示ランプ（緑色）が同時に点灯しますが、異常ではありません。電気器具が起動すると過負荷警告ランプ（赤色）は消灯し、出力表示ランプ（緑色）は点灯し続けます。
- 電気器具が起動した後、一方の発電機の運転を停止するときは、同時に並列コードも取り外してください。

● 携帯工具

発電機に携帯工具が同梱されています。点検・調整の際にご使用ください。

● 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の給油

燃料タンクキャップ①を外し、燃料（自動車用レギュラーガソリン）を赤レベル②まで給油します。

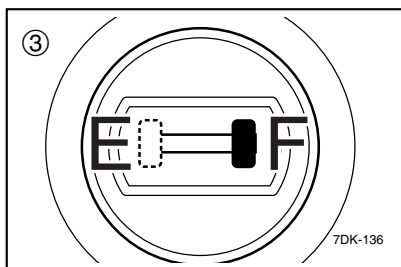
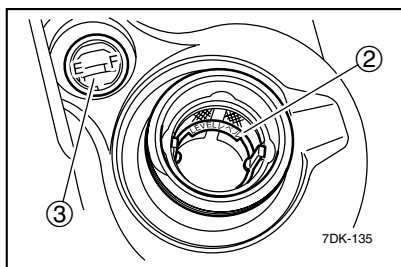
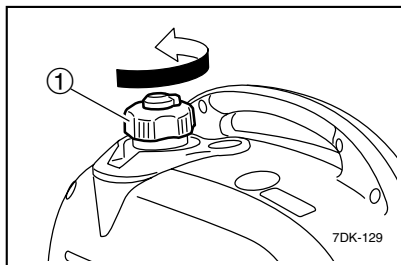
燃料タンク内の燃料の残量は燃料残量計③により確認できます。

燃料タンク容量

4.2L（赤レベルまで）

使用燃料

自動車用レギュラーガソリン



▲ 警告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。

- 給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行なってください。
- 給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行なってください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、ただちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹼と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。

▲ 注意

- 燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。またこぼれたときは、ただちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- 燃料は規定量以上（ストレナーの赤レベル以上）給油しないでください。

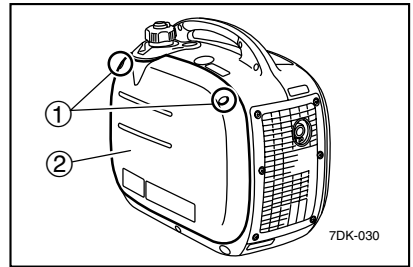
要 点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

● エンジンオイルの給油

購入後は、エンジンオイルを規定量給油してください。

1. スクリュー①を取り外します。
2. カバー②を外側に引いて、カバーを取り外します。



3. オイルプラグキャップ③を外し、エンジンオイルを注入口の口元まで給油します。

オイル量

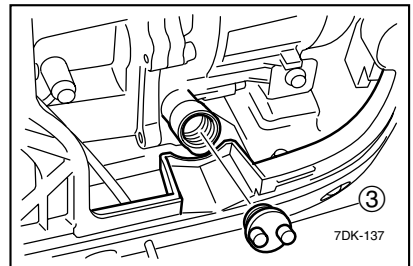
0.4L

使用オイル

4サイクルガソリンエンジンオイル

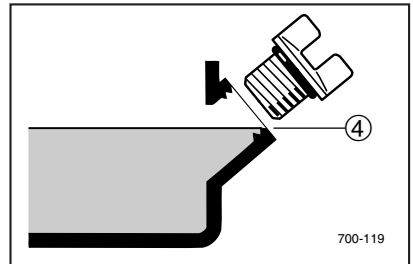
API分類SE級以上

SAE 10W-30または10W-40



▲ 注 意

- 工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので給油してください。
- エンジンオイルを規定量④以上に給油しないでください。
エンジン不調になるおそれがあります。



要 点

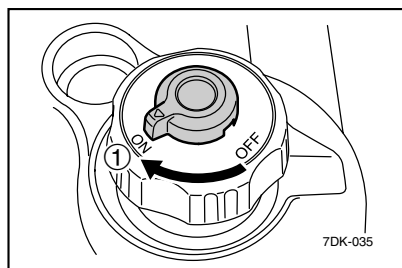
- 給油の仕方は「●エンジンオイルの交換」(P36)も参照してください。
 - エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
 - こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。
-

● エンジンの始動

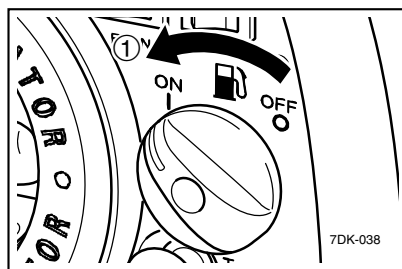
▲ 警告

- 換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。
- エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

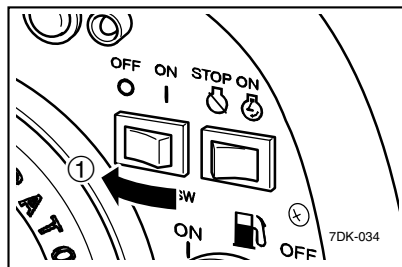
1. 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の量を点検します。
2. 燃料給油キャップつまみをON（開）①にします。



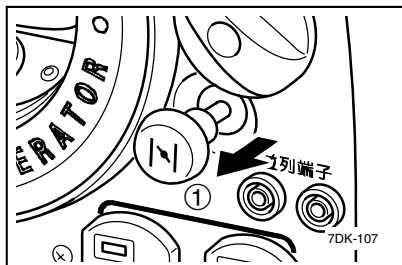
3. 燃料コックをON（開）①にします。



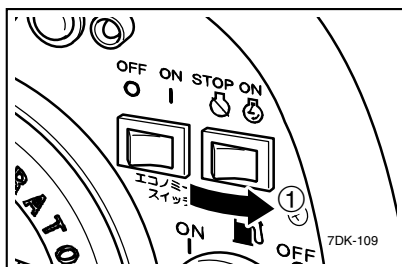
4. エコノミーコントロールスイッチをOFF（解除）①にします。



5. チョークノブを引いて始動①にします。エンジンが暖まっているときはチョークノブは始動①にする必要はありません。



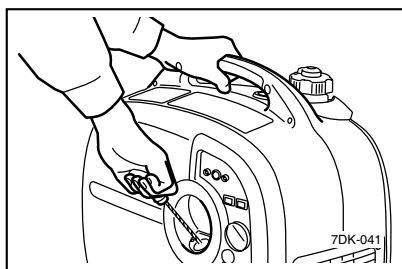
6. エンジンスイッチをON（運転）①の位置にします。



7. リコイルスタータハンドルを軽く引き出し、リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引いてエンジンを始動します。

▲注意

- リコイルスタータハンドルを引くときは、発電機が倒れないように手でハンドルを押さえてください。
- リコイルスタータハンドルを戻すときは、ゆっくりと戻してください。



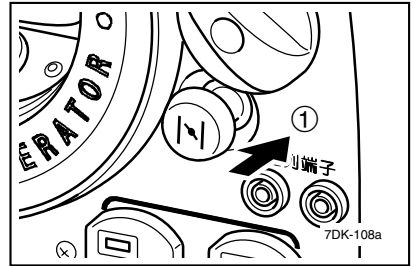
要 点

リコイルスタータハンドルを数回引いてエンジンが始動しないときは、チョークノブを元に戻してリコイルスタータハンドルを引いてください。

8. エンジン回転数が安定したらチョークノブを運転①にします。
9. しばらく暖機運転します。

要 点

気温が5℃以下の場合、エコノミーコントロールスイッチがON（作動中）でも自動的にエンジン回転数が4,500r/minに上昇し、約3分間暖機運転します。気温が0℃以下の場合、4,500r/minで5分間暖機運転します。その後自動的に低速運転に切り替わります。

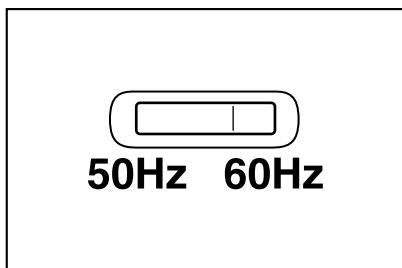


● 交流電源の取り出し方

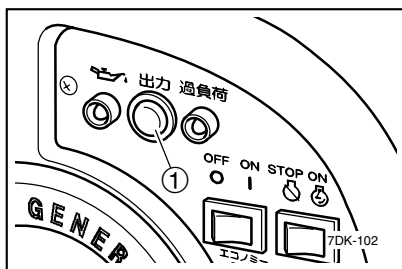
▲注意

- 発電機は接続された電気器具の負荷の変化に合わせて電圧が変化しますので電圧変化に敏感な電気器具は使用しないでください。
- 接続の可否が不明確な場合は電気器具会社にご相談ください。

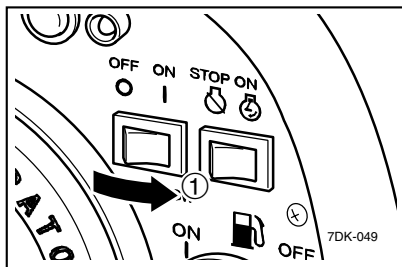
1. 周波数切替スイッチを使用する電気器具の周波数に合わせます。
2. エンジンを始動します。



3. 出力表示ランプ（緑色）①が点灯していることを確認します。



4. エコノミーコントロールスイッチをON（作動中）①にします。

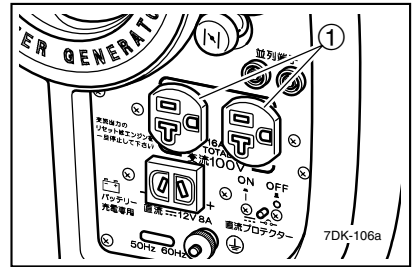


5. 電気器具のプラグを交流コンセント①に差し込みます。

要 点

電気器具のスイッチがOFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

交流コンセント①には単相100Vで合計消費電流16A以下の電気器具のプラグを差し込みます。



- 直流電源の取り出し方（12Vバッテリー充電専用）

▲ 注 意

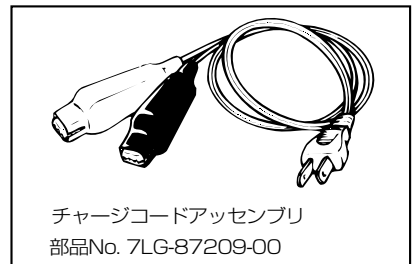
- 直流（DC）と交流（AC）を同時に取り出す場合の交流（AC）の器具の電力は次の範囲を守ってください。

60Hz — 1,500Wまで

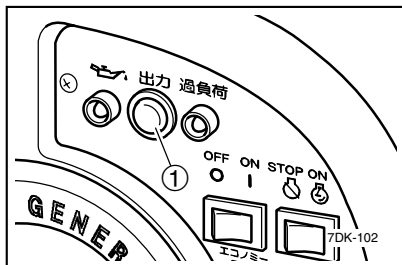
50Hz — 1,500Wまで

- 充電時間はバッテリー液の比重によって異なります。

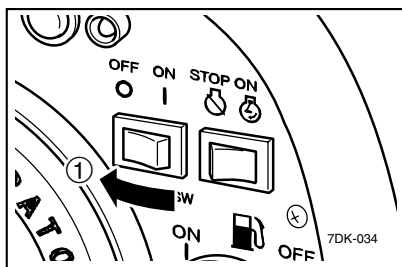
チャージコードアセンブリは有料で販売しています。



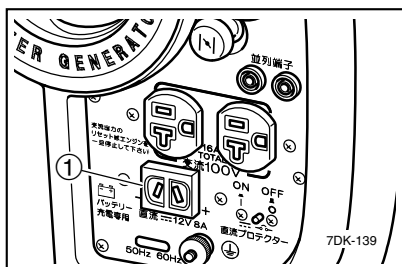
1. エンジンを始動します。
2. 出力表示ランプ（緑色）①が点灯していることを確認します。



3. エコノミーコントロールスイッチをOFF（解除）①にします。



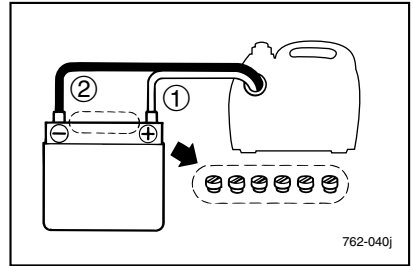
4. チャージコードアセンブリのプラグを直流コンセント①に差し込みます。



5. チャージコードアセンブリの赤色端子①をバッテリーの⊕端子に接続します。
6. チャージコードアセンブリの黒色端子②をバッテリーの⊖端子に接続します。

▲ 注意

- 満充電になるための充電時間はバッテリーの種類、放電状態（比重）によって異なります。
- 詳細は充電するバッテリーの説明書を熟読してください。
- チャージコードアセンブリの取り外しは、エンジン停止後に行ってください。



▲ 警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、けがをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行なってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

● 交流電源の使用可能範囲

交流電源の使用はおおむね次の電気器具の取り出し可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上ご使用ください。

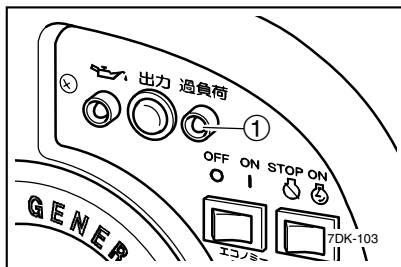
電気器具	取り出し可能範囲 50Hz/60Hz	備考
照明・電熱器・ラジオ・テレビ・ステレオなど	100V、1,600Wまで	力率=1
電動工具類	100V、1,280W程度まで	力率=0.8-0.95
汎用モーター類	100V、640W程度まで	力率=0.4-0.75

▲ 注 意

- 電気器具の合計負荷が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。
- 精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。
- 医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。
- 電気工具類・汎用モーター類の一部には取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。

要 点

- 取り出し可能範囲を超えた場合、また電気器具に異状があった場合は、電気の供給が遮断されます。
- 過負荷警告ランプ（赤色）①は、接続された電気機器から定格出力を超える電気を要求されたとき、コントロールユニットがオーバーヒートしたとき、交流コンセントから定格電圧を超える電圧が出力されたときに点灯します。



-
- コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気機器を使用したとき、過負荷警告ランプ（赤色）が数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。
-

- **直流電源（12Vバッテリー充電専用）の使用可能範囲**

直流電源は40AH、1/2（ハーフ）放電状態のバッテリーを充電できるように作られていますので、これよりも容量の小さいバッテリーを充電してください。

12Vバッテリー

バッテリーの補充電は、バッテリーの放電状態によって充電時間が異なります。バッテリーの比重が1.26～1.28になると充電完了となりますので、1時間おきに比重をチェックしてください。

"40AH"のバッテリーの場合、1/2（ハーフ）放電状態から約5時間でほぼ良好な状態となります。

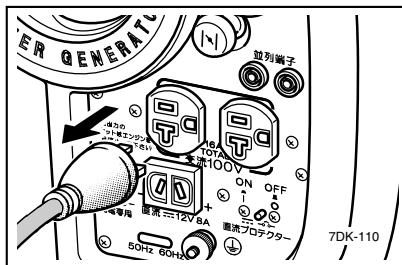
なお、バッテリーの充電は、必ずバッテリーの液量を確認してから行なってください。

▲ 注意

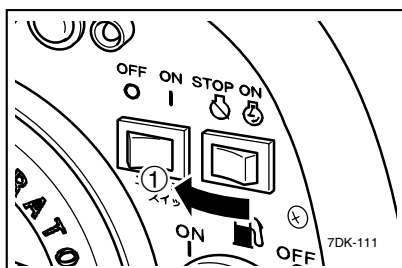
- バッテリー充電中にバッテリーから電気を取ったり、バッテリー充電中に車のスタータモーターを回すなどしないでください。大電流が流れ、発電機ゼネレータ部分のコイル焼けの原因となります。
 - 密閉式バッテリーには専用の充電器が必要です。密閉式バッテリーは接続しないでください。
-

● エンジンの停止

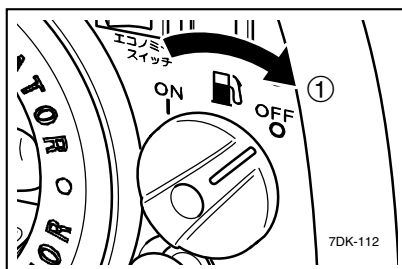
1. 電気器具のスイッチをOFF（切）にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。



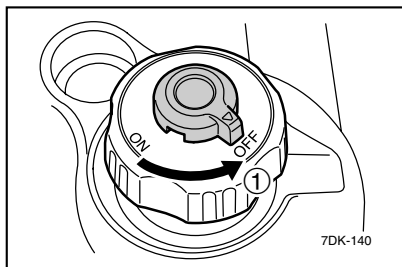
3. エンジンスイッチをSTOP（停止）①の位置にしてエンジンを停止します。



4. 燃料コックをOFF（閉）①にします。



5. エンジンが十分に冷えてから、燃料給油キャップつまみをOFF（閉）①にします。



お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

▲ 警 告

- エンジン運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラー周辺のプロテクタやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。
ヤケドにご注意ください。
- 排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所や、風通しの悪い場所でエンジンを始動しての点検はしないでください。
- 重大な事故・故障の原因になりますので始業点検・定期点検を必ず実施してください。
- 異状が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはお買いあげの販売店またはサービス店で必ず整備を行なってください。

● 始業点検

お客様が発電機をご使用する前に点検を行なってください。

点検箇所に異状がある場合は、お買いあげの販売店またはサービス店で点検・整備をお受けください。

● 定期点検

お買いあげの販売店にお申しつけください。

● 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の点検

燃料タンクキャップを外して、燃料（自動車用レギュラーガソリン）の残量を点検します。

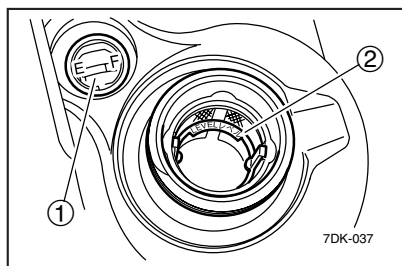
燃料タンク内の燃料の残量は燃料残量計①によっても確認できます。

燃料タンク容量

4.2L（赤レベル②まで）

使用燃料

自動車用レギュラーガソリン

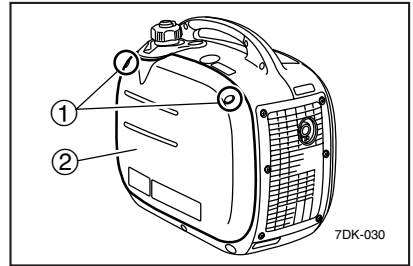


要 点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

● エンジンオイルの点検

1. スクリュー①を取り外します。
2. カバー②を外側に引いて、カバーを取り外します。

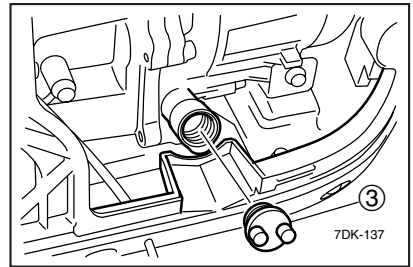


3. オイルプラグキャップ③を外し、エンジンオイルがオイル基準面④までであるか点検します。
エンジンオイルが基準面より少ない場合は、エンジンオイルを注入口の口元まで給油します。

▲ 注意

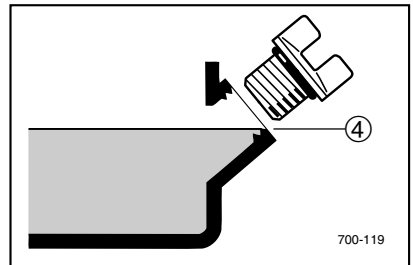
エンジンオイルを基準面以上に給油しないでください。

エンジン不調になるおそれがあります。



要 点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。
- エンジンオイルを規定量入れないとエンジンは始動しません。



● その他の点検

「定期点検表」(P33)を参照してください。

対象部品	点検項目	始業 点検	6ヶ月毎または 100時間運転毎	12ヶ月毎または 300時間運転毎
エンジンオイル	オイル量の点検	○		
	交換		○ (*1)	
燃料	量、漏れ	○		
フューエルパイプ	亀裂、損傷の確認	○		
スパークプラグ	点検、清掃		○	
エアクリーナ	点検、清掃		○ (*2)	
マフラーワイヤネット	清掃、損傷の確認		○	
スパークアレスター	清掃、損傷の確認		○	
燃料タンクストレーナ	清掃			○
ブリーザパイプ	亀裂、損傷の確認			○
シリンダーヘッド部	カーボンの除去			★
バルブクリアランス	点検			★
エンジン回転	調整			★
本体各部	各部の緩み確認			★
前日の作業で異状が認められた箇所		○		

*1 ……初回は1ヶ月目または20時間運転時に実施してください。

*2 ……ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行なってください。

★ ……この項目は整備に関する専門知識、工具、技術を必要としますので、お買いあげの販売店またはサービス店へお申し付けください。

格納中であっても発電機を緊急で使うことが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行なって緊急時に備えてください。

- **定期運転**

1ヶ月に1度定期的に発電機を運転（約10分位）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

- **定期交換**

燃料（自動車用レギュラーガソリン）を満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため3ヶ月に1回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

▲ 警 告

- 本書での指示なき作業などを行なうときにも、必ずエンジンを停止してください。
 - お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、お買いあげの販売店またはサービス店へ作業を依頼してください。
-

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

デンヨー商品の定期点検および整備に関しましては、お買いあげの販売店またはサービス店にご遠慮無くご用命ください。

【ご注意】

1. 整備はお買いあげの販売店またはサービス店へのお持込みを原則とします。
2. 現地整備の場合には別途出張料金を申し受けます。
3. 土曜、日曜、祝日、年末年始、その他夏期など休業させていただく場合があります。
4. 区画整理、電話局の新增設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

● エンジンオイルの交換

▲ 警 告

油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられています。

1. エンジンを始動し2～3分暖機運転します。
2. エンジンスイッチをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。

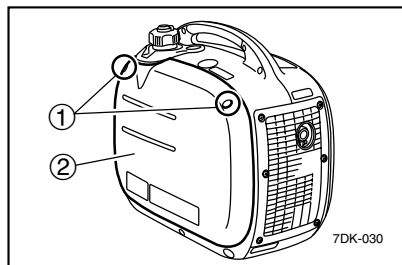
▲ 警 告

エンジン停止直後は、エンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。

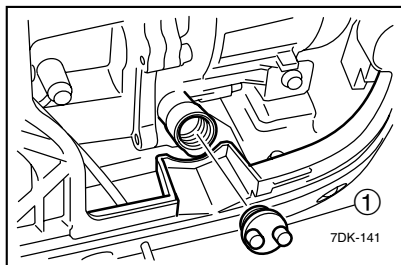
要 点

- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。
- 排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意してください。

3. スクリュー①を取り外し、カバー②を外側に引いて取り外します。



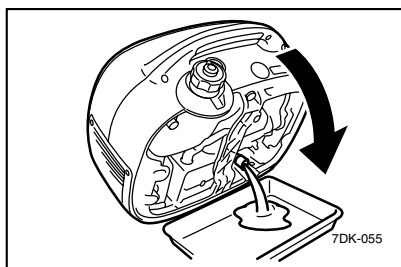
4. オイルプラグキャップ①を取り外します。



5. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。

要 点

初回は20時間目、その後は100時間毎に交換します。



6. 新しいエンジンオイルを注入口の口元まで給油します。

オイル量

0.4L

使用オイル

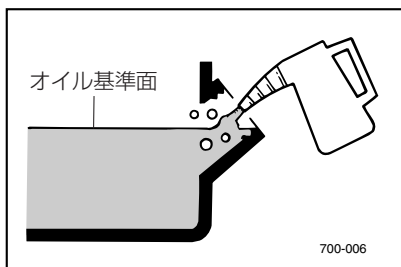
4サイクルガソリンエンジンオイル

API分類SE級以上

SAE 10W-30または10W-40

要 点

エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。



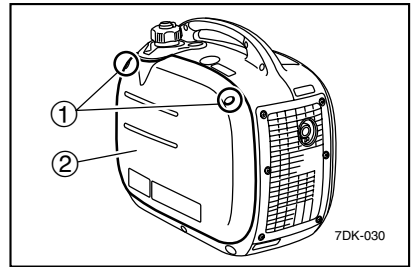
7. オイルプラグキャップを締め付けます。

8. カバーを取り付けて、スクリュを締め付けます。

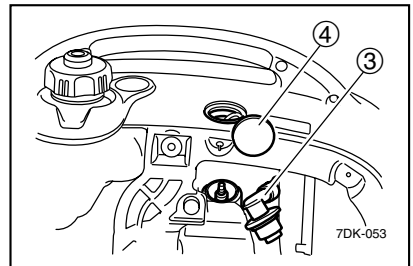
● スパークプラグの点検と清掃

スパークプラグは、点検が簡単な重要部品です。
 スパークプラグは、徐々に劣化しますので、定期的
 に外して点検を行なってください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。
2. スクリュー①を取り外し、カバー②を外側に引いて取り外します。



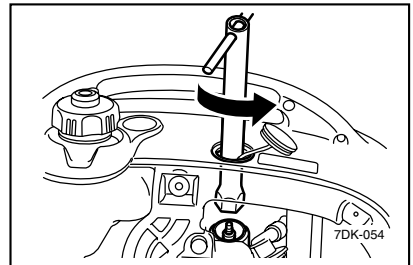
3. スパークプラグキャップ③およびキャップ④を取り外します。



4. スパークプラグレンチを使って、スパークプラグを外します。

▲ 警告

スパークプラグの脱着の際は、ガイシを損傷させないように注意してください。
 ガイシが損傷すると、ショートして火災などを誘発するおそれがあります。



5. スパークプラグの焼け具合を見ます。

通常はキツネ色に焼けますが黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはエアクリーナを点検します。

6. 電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。

7. 電極隙間を点検します。

スパークプラグ

NGK BPR6HS

スパークプラグギャップ

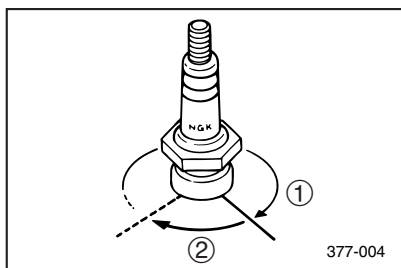
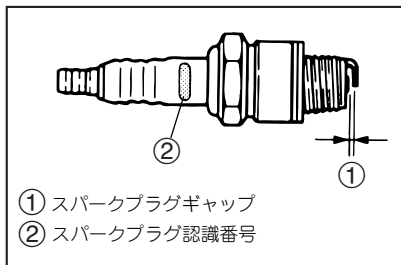
0.6-0.7mm

8. スパークプラグを締め付けます。

要 点

スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できないときは、指でいっぱいに締め込んだ後①、プラグレンチを使って1/4-1/2回転②更に締め込んでください。

できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規の値（15.0 N・m-25.0 N・m）で締めてください。



9. スパークプラグキャップおよびキャップを取り付けます。

10. カバーを取り付けて、スクリュを締め付けます。

● 燃料タンクストレーナの清掃

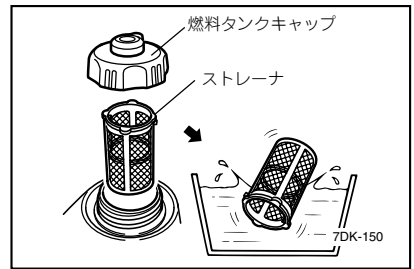
要 点

ストレーナが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れが溜まっていることがあります。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。
2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外します。
3. ガソリンを使ってストレーナを洗浄します。

要 点

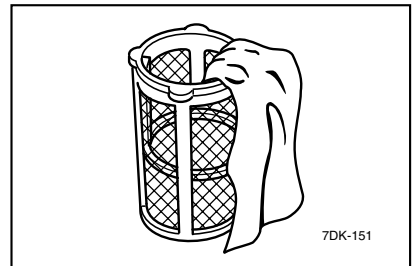
ストレーナが破損している場合は新品と交換してください。



4. ストレーナを拭いて挿入します。
5. 燃料タンクキャップを取り付けます。

▲ 警 告

燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。

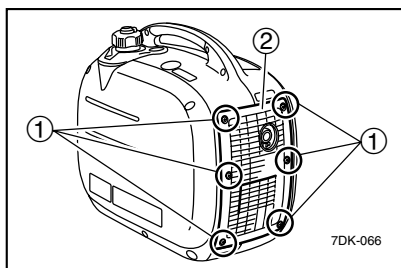


● マフラーワイヤネットの清掃

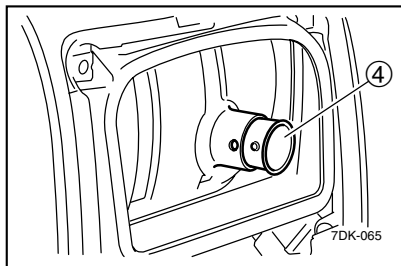
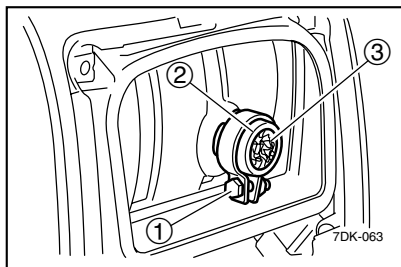
▲ 警告

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっていますので、ヤケドに注意してください。点検や整備は、十分にエンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが冷えてから行なってください。

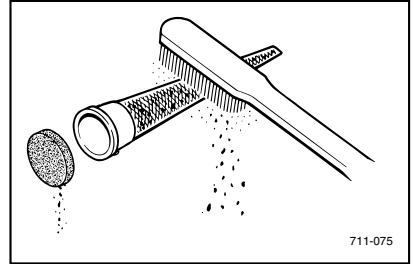
1. エンジンスイッチをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。
2. スクリュー①を取り外し、カバー②を外側に引いて取り外します。



3. ボルト①を緩めて、マフラーキャップ②、マフラーワイヤネット③、スパークアレスター④を取り外します。



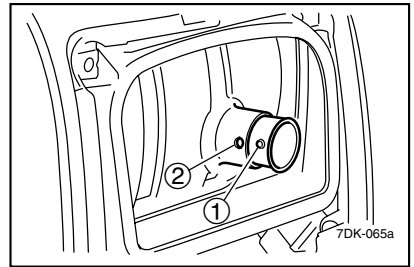
4. ワイヤブラシを利用して、マフラーワイヤネットとスパークアレスターの汚れを取り除きます。



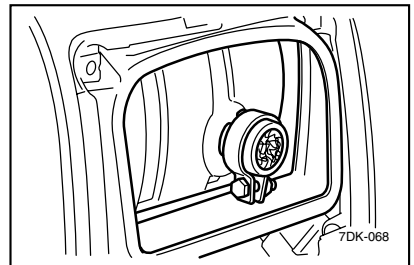
5. スパークアレスターを取り付けます。

要 点

スパークアレスターの突起部①とマフラーパイプの穴②の位置を合わせてください。



6. マフラーワイヤネットとマフラーキャップを取り付け、ボルトを締め付けます。
7. カバーを取り付けて、スクリュを締め付けます。

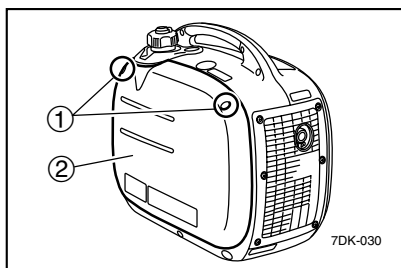


● エアクリーナエレメントの清掃

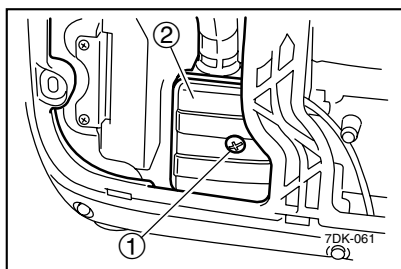
要 点

ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。
2. スクリュー①を取り外し、カバー②を外側に引いて取り外します。



3. スクリュー①を外し、エアクリーナカバー②を外します。

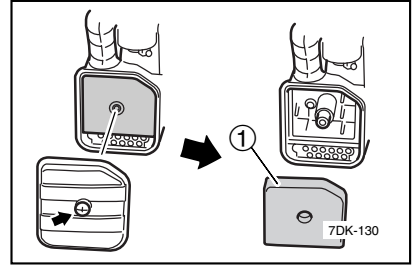


4. エLEMENT①をエアクリーナ本体から外します。

5. エLEMENTをきれいな白灯油で洗淨します。

警告

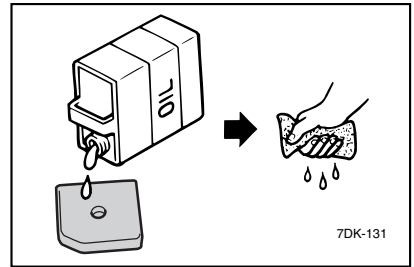
油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられていますのでお買いあげの販売店またはサービス店へご相談ください。



6. エLEMENTをエンジンオイルなどにひたし、その後余分なオイルを取り除きます。

注意

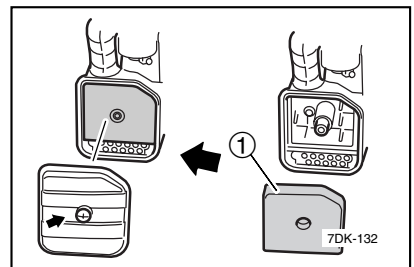
ELEMENTは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。



7. ELEMENT①をエアクリーナ本体にはめ込みます。

注意

ELEMENTを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。



8. エアクリーナカバーを元の位置に戻し、取り付けスクリュで締め付けます。

9. カバーを取り付けて、スクリュを締め付けます。

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは取り扱いの不慣れや不備に起因しています。故障が生じたときはお買いあげの販売店またはサービス店にご相談ください。

下記には最も考えられる故障とその想定される原因を列記しました。故障診断が不安なときは、できるだけそのままの状態でお買いあげの販売店またはサービス店に連絡し専門技術者にご相談ください。

● エンジンが始動しない

1. 燃料系統（燃烧室に燃料が供給されていない）

燃料タンクが空になっている 燃料（自動車用レギュラーガソリン）を補給する。

燃料パイプが目詰まりしている 燃料パイプを清掃する。

またはお買いあげの販売店・サービス店に相談する。

燃料コックに異物が混入している 燃料コックを清掃する。

またはお買いあげの販売店・サービス店に相談する。

キャブレタが目詰まりしている キャブレタを清掃する。

またはお買いあげの販売店・サービス店に相談する。

2. 電気系統（火花不足）

スパークプラグが汚れている スパークプラグを乾燥させて清掃する。

スパークプラグにカーボンが

付着している カーボンを除去する。

点火系統が不良 お買いあげの販売店またはサービス店に相談する。

3. 圧縮系統（圧縮不足、洩れ） お買いあげの販売店またはサービス店に相談する。

4. 潤滑系統（オイル不足）

リコイルスタータハンドルを引くと

オイル警告ランプ（赤色）が点滅する エンジンオイルを補給する。

● 電気が出ない

交流過電流保護装置が作動している エンジンスイッチをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止し、その後始動する。

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

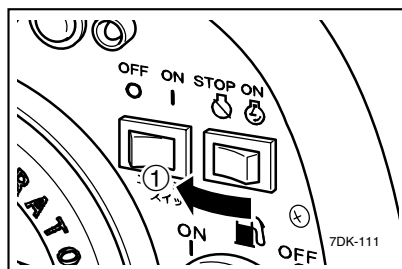
▲警告

- 振動、衝撃などで燃料タンクの燃料（自動車用レギュラーガソリン）がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。
- 燃料が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- 火災のおそれがありますので、予備の燃料は消防法に適合した鉄製の携帯タンクに保管してください。

▲注意

発電機の上に重い物を置かないでください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）①の位置にします。

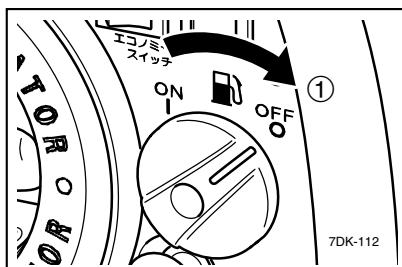


2. 燃料タンク内の燃料を抜きます。

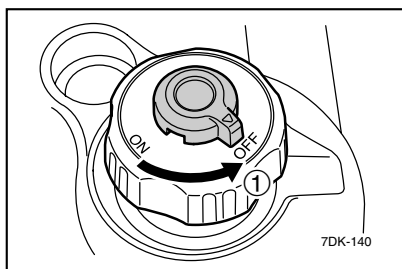
警告

- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。
- こぼれた燃料はただちに布きれなどで完全にふき取ってください。

3. 燃料コックをOFF（閉）①にします。



4. 燃料給油キャップつまみをOFF（閉）①にします。



5. 発電機をロープなどで確実に固定します。

要点

発電機が移動、転倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。

● 保管

使用後または定期運転後、次回の使用が3ヶ月以降になる場合は、1～14の作業を行なって保管し、次に使用するときに備えてください。

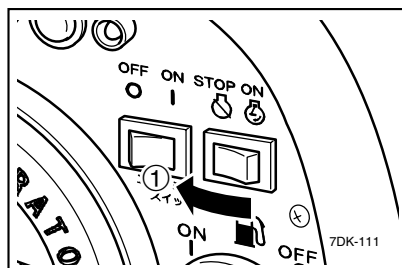
▲ 注意

燃料（自動車用レギュラーガソリン）が自然劣化してエンジンの始動が困難になる場合がありますので燃料は抜いてください。

要 点

排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）①の位置にしてエンジンを停止します。



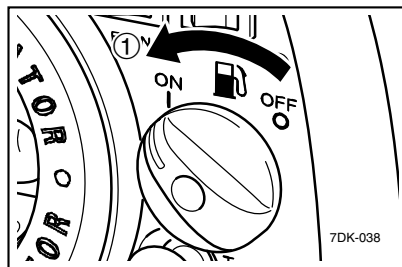
2. 燃料タンク内の燃料を抜きます。

▲ 警告

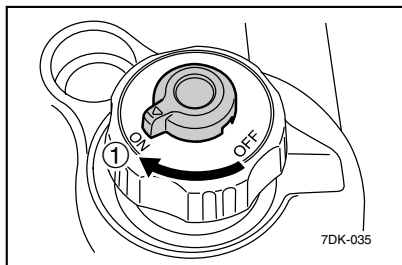
- 燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。
- こぼれた燃料はただちに布きれなどで完全にふき取ってください。

3. エンジンスイッチをON（運転）の位置にします。

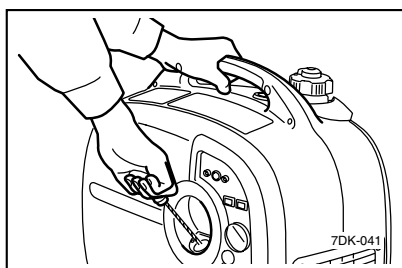
4. 燃料コックをOFF（閉）からON（開）①にします。



5. 燃料給油キャップつまみをON（開）①にします。



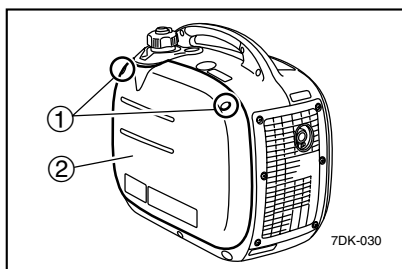
6. リコイルスタータハンドルを引いてエンジンを始動します。約20分後にエンジンは「ガス欠状態」で停止します。



要 点

- 電気器具は接続しないでください。（無負荷運転）
- 燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。

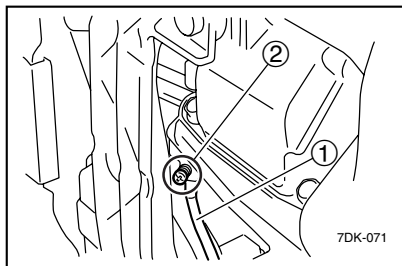
7. スクリュー①を取り外し、カバー②を外側に引いて取り外します。



8. キャブレタのドレンパイプ①を容器に受け、キャブレタのドレンスクリュー②をドライバ⊕で緩めて燃料を抜きます。

警告

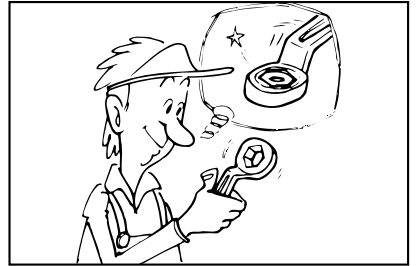
こぼれた燃料はただちに布きれなどで完全にふき取ってください。



要 点

キャブレタ内のガソリンを抜かずに長期間放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。

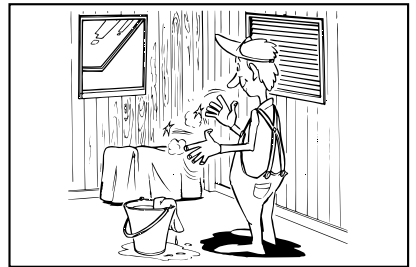
9. ドレンスクリュを締め付けます。
10. エンジンスイッチをSTOP（停止）の位置、燃料コックをOFF（閉）にします。
11. 燃料給油キャップつまみをOFF（閉）にします。
12. カバーを取り付けて、スクリュを締め付けます。
13. 緩みがあれば各ボルト・ナット・スクリュを増し締めします。



14. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

▲ 注 意

火災のおそれがありますので、発電機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、マフラー部が充分に冷えてから行なってください。



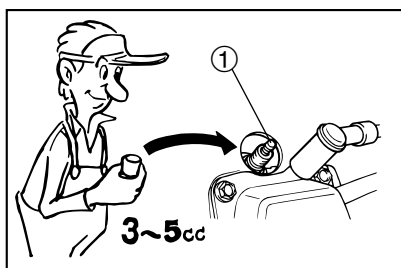
● 格納

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行なって格納し、次に使用する機会に備えてください。

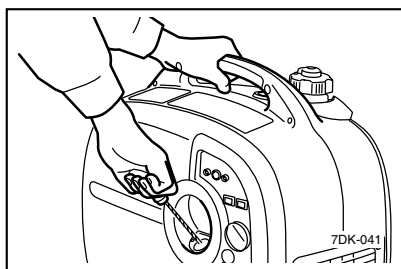
1. 「●保管」の1～12の作業を行ないます。

2. スパークプラグ①を外しプラグ孔よりエンジンオイルを3～5cc給油します。

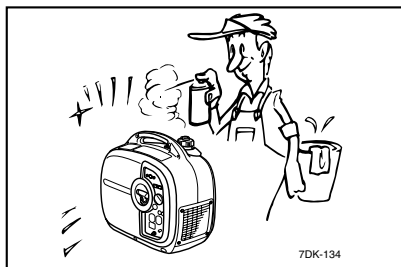
3. リコイルスタータハンドルを3～5回引いた後、スパークプラグを取り付けます。



4. リコイルスタータハンドルを引き、重くなった状態（圧縮状態）にします。



5. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。



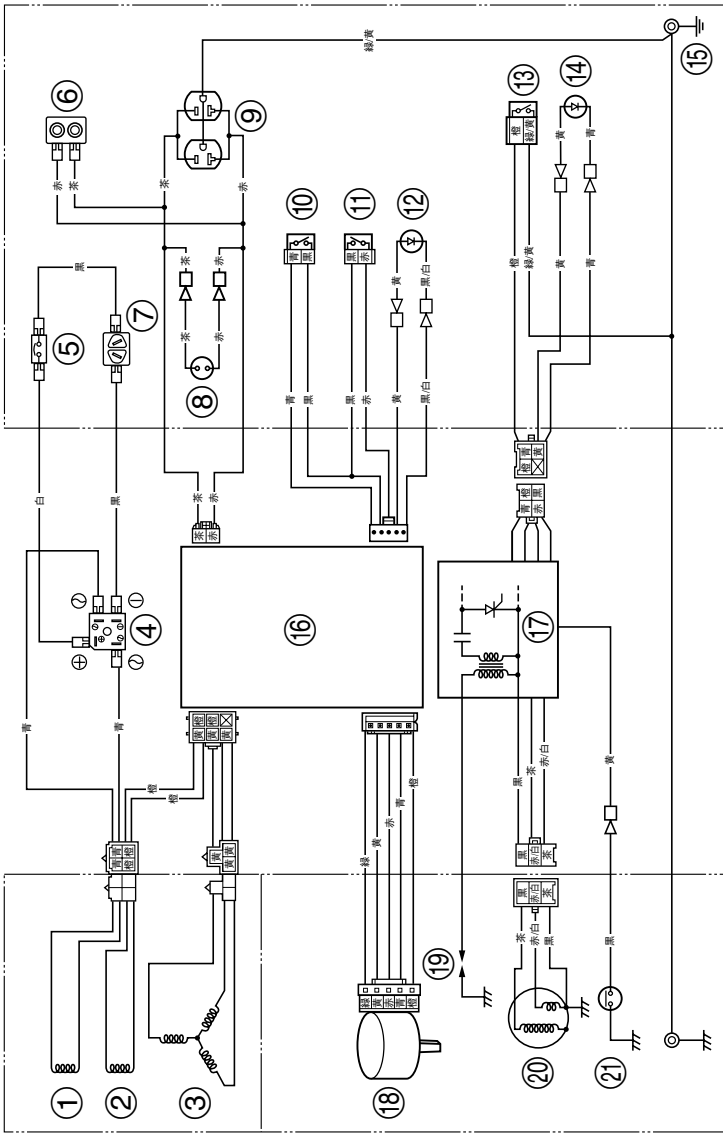
6. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。



名称		GE-1600SS-IV	
形式		多極回転界磁形	
電圧調整方式		インバータ式	
励磁方式		自己励磁式	
力率		1.0	
発電機	交流	定格周波数	50Hz/60Hz (切替式)
		定格出力	1.6kVA
		定格電圧	100V
		定格電流	16A
		並列接続時定格出力	3.0kVA
	並列接続時定格電流	30A	
	直流	定格電圧	12V
	定格電流	8A	
装備	駆動方式		エンジン直結
	交流コンセント		20A×2個
	交流過電流保護装置		電子式
	直流コンセント		12A×1個
	直流過電流保護装置		直流プロテクタ
エンジン	エンジン種類		空冷4サイクルガソリンエンジン
	調速機形式		電子制御式
	冷却方式		強制空冷式
	点火方式		CDI点火
	スパークプラグ		NGK・BPR6HS
	プラグキャップ		0.6-0.7mm
	エアクリーナ方式		半湿式 (ウレタンフォーム)
	総排気量		79mL (79cm ³)
	使用燃料		無鉛ガソリン (自動車用レギュラーガソリン)
	潤滑方式		強制飛沫式
エンジンオイル		API分類SE級以上エンジンオイル (SAE 10W-30または10W-40)	
エンジンオイル規定量		0.4L	
始動方式		リコイル式	
燃料タンク容量 (赤レベル)		4.2L	
定格連続運転時間 (赤レベル)		約4.2時間 * 1	
1/4負荷連続運転時間 (赤レベル)		約10.5時間 * 1	
乾燥重量		20kg	
全長×全幅×全高		490×280×455mm	
騒音レベル (7m)		51.5-61dB (A) (1/4負荷-定格負荷) * 1	
バッテリー		無	

• この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

* 1 : エコノミースイッチON時



7DK-113

- ① サブコイル
- ② 直流コイル
- ③ メインコイル
- ④ レクチファイヤ
- ⑤ 直流プロテクタ (過電流保護装置)
- ⑥ 並列端子 (交流用)
- ⑦ 直流コンセント
- ⑧ 出力表示ランプ (緑色)
- ⑨ 交流コンセント
- ⑩ 周波数切替スイッチ
- ⑪ エコノミーコントロールスイッチ
- ⑫ 過負荷警告ランプ (赤色)
- ⑬ エンジンスイッチ
- ⑭ オイル警告ランプ (赤色)
- ⑮ アース端子
- ⑯ コントロールユニット
- ⑰ C.D.ユニット/イグニッションコイル
- ⑱ ステッピングモーター
- ⑲ スパークプラグ
- ⑳ C.D.マグネット
- ㉑ オイルレベルゲージ

あ行

アース端子	7, 14
安全にお使いいただくために	3
運搬	46
エアクリーナエレメントの清掃	43
エアクリーナ	7, 43
エコノミーコントロールスイッチ	7, 14
エンジンオイルの給油	18
エンジンオイルの交換	36
エンジンオイルの点検	32
エンジンが始動しない	45
エンジンスイッチ	7, 10
エンジンの始動	10, 20
エンジンの停止	10, 29
オイル警告装置	9
オイル警告ランプ（赤色）	7, 11
オイルプラグキャップ	7
お客様ご相談窓口のご案内	2
おねがい	表紙裏(表2)

か行

格納	51
各部の取り扱い	9
各部の名称	7
過負荷警告ランプ（赤色）	7, 11, 16
キャブレタ	7
警告	3
警告シンボルマーク	表紙裏(表2)
警告ラベル	5
携帯工具	16
交流コンセント	7, 10
結線図	55
交流電源の使用可能範囲	27
交流電源の取り出し方	23
故障診断	45

さ行

始業点検	30, 31
周波数切替スイッチ	7, 13
出力表示ランプ（緑色）	7, 11
重要ラベル	5
仕様諸元	53
スパークプラグ	7, 38
スパークプラグキャップ	7
スパークプラグの点検と清掃	38
スパークプラグレンチ	7
製造番号	1
製造番号ラベル	1, 6
その他の点検	32
その他ラベル	6

た行

正しい運転操作	20
チャージコードアッセンブリ	24
注意	4
注意シンボルマーク	表紙裏(表2)
注意ラベル	6
チョークノブ	7, 13
直流コンセント	7, 10
直流電源の取り出し方 （12Vバッテリー充電専用）	24
直流電源（12Vバッテリー充電専用） の使用可能範囲	28
直流プロテクタ（過電流保護装置）	7, 15
定期運転	34
定期交換	34
定期点検	30
定期点検・整備ご相談窓口のご案内	35
定期点検表	33
点検	30
点検・調整	36
電気が出ない	45

な行

燃料給油キャップつまみ	7, 12
燃料コック	7, 12
燃料残量計	7
燃料タンクキャップ	7
燃料タンクストレーナの清掃	40
燃料（自動車用レギュラー ガソリン）の給油	17
燃料（自動車用レギュラー ガソリン）の点検	31

は行

はじめにお使いになる前に	17
ハンドル	7
並列端子（交流用）	7, 16
保管	48
保管・格納	48

ま行

マフラー	7
マフラーワイヤネットの清掃	41

や行

要点シンボルマーク	表紙裏(表2)
-----------	---------

ら行

リコイルスタータハンドル	7, 14
--------------	-------

安心・信頼の全国ネットで結ぶデンヨーサービス網

営業所・出張所

札幌営業所	〒003-0030 札幌市白石区流通センター4-1-21	TEL.011 (862) 1221 FAX.011 (860) 2343
東北営業所	〒983-0014 仙台市宮城野区高砂1-30-14	TEL.022 (254) 7311 FAX.022 (387) 1261
盛岡出張所	〒020-0122 盛岡市みたけ3-11-10	TEL.019 (647) 4611 FAX.019 (647) 4613
青森連絡所	〒030-0964 青森市南佃1-12-7 サン電機サービス内	TEL.019 (647) 4611 FAX.019 (647) 4613
秋田連絡所	〒011-0951 秋田市土崎港相染町字沖谷地166	TEL.019 (647) 4611 FAX.019 (647) 4613
山形連絡所	〒999-3101 上山市金瓶字石田3-6 (有)シンコウ機工内	TEL.023 (672) 6591 FAX.023 (672) 4796
信越営業所	〒950-2032 新潟市西区の場流通2-3-13	TEL.025 (268) 0791 FAX.025 (268) 0795
松本出張所	〒399-0701 塩尻市広丘吉田1082-1	TEL.0263 (86) 0226 FAX.0263 (86) 0249
北関東営業所	〒370-0871 高崎市上豊岡町570-1	TEL.027 (360) 4570 FAX.027 (360) 4571
水戸出張所	〒310-0841 水戸市酒門町字西割4225	TEL.029 (247) 9191 FAX.029 (247) 9192
東京営業所	〒103-0012 中央区日本橋堀留町2-8-5	TEL.03 (6861) 1122 FAX.03 (6861) 1182
川越出張所	〒350-0833 川越市芳野台2-8-65	TEL.049 (225) 6622 FAX.049 (222) 6120
千葉出張所	〒290-0036 市原市松ヶ島西1-1-12	TEL.0436 (23) 1141 FAX.0436 (23) 1205
甲府連絡所	〒406-0846 笛吹市境川町三柵797	TEL.055 (266) 6815 FAX.055 (266) 6816
横浜営業所	〒236-0002 横浜市金沢区鳥浜町3-14	TEL.045 (774) 0321 FAX.045 (770) 1003
静岡営業所	〒420-0813 静岡市葵区長沼985-12	TEL.054 (261) 3259 FAX.054 (267) 0178
浜松連絡所	〒435-0042 浜松市東区篠ヶ瀬町64-1	TEL.053 (422) 4175 FAX.053 (422) 4178
名古屋営業所	〒460-0006 名古屋市中区葵1-27-32 カイビル7階	TEL.052 (935) 0621 FAX.052 (939) 2271
金沢営業所	〒921-8066 金沢市矢木3-296	TEL.076 (269) 1231 FAX.076 (269) 8011
大阪営業所	〒660-0822 尼崎市杭瀬南新町3-1-5	TEL.06 (6488) 7131 FAX.06 (6483) 2016
広島営業所	〒733-0833 広島市西区商工センター5-10-15	TEL.082 (278) 3350 FAX.082 (501) 0753
岡山出張所	〒702-8002 岡山市中区桑野710-11	TEL.086 (276) 8581 FAX.086 (276) 8583
高松営業所	〒769-0101 高松市国分寺町新居1391-3	TEL.087 (874) 3301 FAX.087 (870) 6018
九州営業所	〒811-2112 粕屋郡須恵町植木167-1	TEL.092 (935) 0700 FAX.092 (931) 2022
鹿児島出張所	〒899-2704 鹿児島市春山町1889-8	TEL.099 (278) 1300 FAX.099 (278) 1503
沖縄出張所	〒901-2132 浦添市伊祖1-4-15 アネックス稲福	TEL.098 (878) 2725 FAX.098 (878) 4774

